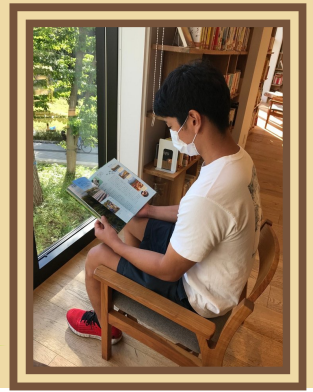


常連さんの横顔

廣川登也君(23)

「めっちゃめっちゃリフレッシュできる！本がある！出会いがある！
本を読むことは人と会話しているように思えます」



それは2020年の11月、偶然だった。

「グランベリーパーク内を見ていて、ふらっと立ち寄った」という廣川君。

初めてのまちライブラリーは「すごくいい所だった！ショッピングモールの中にこんな落ち着いた場所あるんだー、それに本もある！」と気に入り、週に2~3回通うように。

「大学院受験の勉強をするのに集中できてめっちゃめっちゃ良かった！」。中学までは愛知県豊橋市で、高校はニュージーランドへ留学、大学で上京。この春、オーストラリアの大学院に合格した。

子供の頃は外で遊んでばかりで全く本を読まなかったという。

それがまちライブラリーに通うようになって大きく変わった。年齢や性別を問わず、どんな人にもフラットな気持ちで接する廣川君。ここで出会ったHさん(60代男性)の

「本は人と一緒だよ。合う合わないは一期一会」

という言葉に

**「面白い考えだなと思って。本を読むのは人に会っているのと同じ
だから、会話しているようなものなんだと気付いたんです」**

その後は読書を楽しむようになった。

今一番の興味は環境問題。「海や魚をどう未来に残していくのか。ずっとラグビーに打ち込んできて一区切りついたので、自然のためになることをやろう」と、コロナ渦でオーストラリアへ渡航できない中、少しずつ知識を得てきた。「現場で学びたいと思っていた時に環境問題の活動をしている、ラグビーの後輩のお母さんが漁師さんを紹介してくれたんです」。この夏1カ月、勝浦と気仙沼へ。「めっちゃめっちゃよかった！ 優しくていい人ばかりで貴重な時間でした」。10月に再び気仙沼へ。読書や漁師の仕事など一つ一つの経験が、今の廣川君を動かしている。

廣川君にとってのまちライブラリーは…

**「よしっ気晴らしに行こう！って、
めっちゃめっちゃリフレッシュできる所です。」**

本を選ぶのは難しいから、スタッフの人に教えてもらえるのもいい。

イベント参加も自分の知らない世界だから面白いし、

ここで、いろいろな人と出会いたい」

今年から道が開き始めているという廣川君。

新たな出会い×廣川登也、どんな化学反応を見せてくれるのか…乞うご期待！

好きな作家&おすすめ本

好きなのは自伝小説。人物をイメージしながら読めるのがいい。読みやすいのも魅力。

おすすめは、歴史小説のベストセラー作家・津本陽による、長編小説「小説 渋沢栄一」上巻・下巻